



小学生の頃から医療系の仕事への憧れがあり、進路選択のときに歯科衛生士の仕事に興味を持ったという篠木さん。「近年、口腔の健康と全身の健康の関係が明らかになっており、口腔の健康は口から食べる喜び、話す楽しみを保つ上で重要であることから、歯科衛生士の役割は大きいと考えています。」

Yumi Shinoki

篠木悠美さん

歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻4年

4年間で学んだことを 臨床の現場で生かす

口腔保健学科口腔保健衛生学専攻4年の篠木悠美さんは、歯科予防のプロである歯科衛生士に憧れて東京医科歯科大学に入学した。卒業という節目を目前に控えた今、この4年間で振り返ってみると、非常に充実した大学生活を送ることができたという。

「充実したカリキュラムのもとで、講義と基礎実習で基本的な知識と技術を身につけ、臨床実習と臨地実習で身につけた知識と技術を応用して実践力を養うことができたと思います。また、臨床実習・臨地実習では病院での実習だけではなく、施設や在宅への訪問歯科診療や周術期口腔機能管理などの見学も行うことができ、より広い視野で学ぶことができました」

数ある実習の中では、医学科や歯学科の学生に対して口腔ケアの手法を教える医学科・歯学科・口腔保健学科の合同実習（3年後期）も印象深いという。

「口腔ケアの基本を説明した後、自分で口腔ケアを実践して見せて、さらに他学科の学生にも体験してもらおう実習です。他者に教えることを通じて自分自身でも学べますし、他学科の人たちに歯科衛生士がどんな仕事なのか知ってもらおう良い機会になりました」

部活は、中高ともに水泳部だったこともあり、大学でも水泳部に所属。部員は約80人で、メインの夏の大会に向けて練習に励んでいた。2016年度の全日本歯科学学生総合体育大会では、団体に男女総合2位、個人では100メートル平泳ぎに出場し、自己ベストのタイムで入賞を果たした。

「大学でも部活動を続けたことで、他学科の学生と盛んに交流をすることができ、縦と横の繋がりを築くことができました。OB・OGの先生方、先輩方、同期、後輩にも恵まれ、水泳部に入学して本当に良かったと思っています」

卒業後は都内にある大病院の歯科に就職することが決まっているが、研究にも興味があり、いろいろなことにチャレンジしたいと話す。

「4年間の講義や実習で学んだことを糧に、卒業後は臨床の現場で経験を積み、認定資格の取得を目指し、研究面でも学会発表ができるようになりたいと考えています」



全日本歯科学学生総合体育大会での写真(中央)。

あと数カ月で卒業。病院での仕事への期待と不安が高まる。